新宿海上ビル診療所 室賀 一宏　日本TCM研究所 安井 廣迪

四物湯

太平恵民和剤局方

組 成	当帰 3〜5, 芍薬 3〜5, 川芎 3〜5, 地黄 3〜5
主 治	肝血不足　血滞
効 能	補血調血

プロフィール

四物湯は『和剤局方』に出典を持つ処方であるが、『金匱要略』の芎帰膠艾湯から甘草、艾葉、阿膠を除いたものであり、その基本構成はすでに漢代にできあがったと考えられる。日本では曲直瀬流の医師が多用し、『啓迪集』血証門にも記載され、長沢道寿の『医方口訣集』にも3番目の処方として収載されている。その後、和田東郭、北尾春圃、香月牛山、浅田宗伯などはいずれもこの処方の特徴を記しているが、症例報告は少ない。昭和の漢方復興期に基本処方の一つとして重視され、現在に至っている。

方　解

地黄は滋陰養血し、芍薬は補血斂陰して柔肝に働き、当帰は補血活血して調経し、川芎は血中の気薬として活血行気する。四薬共に血分に働き、補血して滞らせず、行血して破血せず、補中に散があり、散中に収斂があり、バランスの良い補血の要剤である。ただし、臨床上は多く加減して用いる。

四診上の特徴

教科書的には、肝血虚により、眼のかすみ、眼の異物感、眩暈、ふらつき、耳鳴、顔にツヤがない、口唇の荒れ、毛髪にツヤがない、爪がもろいなど、また女性では衝脈、任脈の機能が障害されて発症する月経過少、月経周期の延長などの症候を呈する。脈は弦細、舌は淡紅、舌苔は薄白とされている。

山田は、「婦人に多く用いられ、諸種の出血や貧血の徴候があって皮膚枯燥の傾向があり、瘀血、月経不順、自律神経失調などの症状がある。…脈は沈んで弱く、腹は軟弱で任脈(正中線)上の水分の経穴(臍上一寸)に動悸を触れる」[1]と、矢数は「一般に貧血の症があって、皮膚枯燥し、脈は沈んで弱く、腹は軟弱で臍上に動悸を触れるものを目標とする」[2]と述べている。また小川は四物湯の腹証について、「下腹、特に左右鼠蹊上部、恥骨周辺部において皮膚は浮腫状でなく、筋性の抵抗は無力性でもなく、『少し潤のない乾いた感じの皮膚で、指頭に少し圧をかけて深く按じてみるに腹斜筋、または直腹筋にそって帯状の筋性抵抗と圧痛を触れる』ことが特徴である。また恥骨の周辺部を観察してみると、帯状というよりは、恥骨の上縁に沿って背の低い雑木が叢をなしたように抵抗と圧痛を伴っていることが多い。ただし鼠蹊上部の帯状抵抗、直腹筋下部の棒状の抵抗は深い筋層であり、恥骨周辺の抵抗は浅い筋層である。」[3]と述べている。

臨床応用

四物湯の適応症は肝血不足による諸症状であるが、臨床上は単独での使用よりも他の処方を併用した場合の報告が多い。

1. 婦人科疾患

四物湯類は、婦人科疾患の治療において重要な処方の一つである。佐野は、血虚と診断した月経不順や続発性無月経の24例、気分障害14例、乾燥肌など皮膚疾患9例、切迫流早産5例、不妊症2例の計54例に四物湯を投与した。その結果、31例で有効、不変13例、悪化3例、7例は不明であったと述べている[4]。村田は、冷え症の治療の報告の中で、全71例中5例に四物湯を投与し、全例有効であったと述べている[5]。さらに不妊症に対しての自験及び諸家の治療成績をまとめて報告している。それによると、自験例では416例中34例(8.2%)が四物湯、28例(6.7%)が温経湯、7例(1.7%)が芎帰膠艾湯、4例(1.0%)が温清飲、十全大補湯1例(0.2%)であった。また、諸家の報告でも近似した結果であった[6]。

川田らは、下肢または陰部に静脈瘤があり、かつ鼠径部に圧痛が認められた妊婦8例に対し、最初に四物湯を投与し効果が不十分な症例に桂枝茯苓丸を併用した結果を報告している。それによると、4例は四物湯投与3〜8日で鼠径部の圧痛が改善し、桂枝茯苓丸を併用した4例でも併用後3〜5日で軽快。里帰り出産で34週から治療した四物湯単独例のみ静脈瘤が残ったが、他の例では静脈瘤は消失したという。また、桂枝茯苓丸併用群の方が重症であったと述べている[7]。

この他、更年期不定愁訴に加味逍遙散と合方、苓桂朮甘湯と合方(連珠飲)などは頻用される合方例であるが、難治性帯下に一貫堂の竜胆瀉肝湯と合方した治療例もある[8]。

2. 皮膚疾患

四物湯を皮膚疾患に用いる際は、全身的な血虚のみならず局所的な血虚の症状にも注目すると有効性が高まる。

四物湯単独の治療報告はやはり少ない。ステロイド剤は、皮膚疾患の治療において絶大な効力をみるが、副作用の一つに色素沈着がある。岡田はこの色素沈着が改善した3症例(四

物湯単独2例、白虎加人参湯併用1例)[9]と、尋常性痤瘡の4例(四物湯単独2例、白虎加人参湯との併用2例)の著効例[10]を報告している。岡田はこの他、手背部のⅡ度熱傷に対しても四物湯を用いることにより、機能障害を残さず治癒した例も報告している[11]。

また、中島は爪廓炎と爪が割れやすい2例に対し、四物湯と変方紫雲膏を用いて改善したと述べている[12]。さらに高田は乾燥性皮膚疾患19例に本方を投与した結果、臨床所見の改善がみられた14例で、皮膚の吸水能と水分保持能の改善がみられたと報告している[13]他、透析患者の皮膚掻痒症に使用したものもある[14]。

四物湯併用の報告は、温清飲(四物湯合黄連解毒湯)以外にも多数ある。アトピー性皮膚炎に対しては、山田の報告によれば白虎加桂枝湯合四物湯加荊芥、連翹が52例中12例で有効であり、虚実間証から実証の場合で痒みが強く、上半身(特に顔)に赤みが強かったと述べている[15]。勿論、四物湯単独で軽快した報告もある[16]が、このように他剤と併用した報告がほとんどである。加味逍遙散との併用では、関が20～40歳代の女性で瘀血があり、かつ、くすみ、かさつき、しみなどの皮膚症状の悩みを有する11名に本方を投与し、瘀血スコアと皮膚症状の改善に高い相関関係がみられ、特に、血色・顔色、くすみ、かさつきで改善度が高かったと報告している[17]。また、蕁麻疹や進行性指掌角皮症、慢性湿疹、強皮症に用いられることがある。この他、三物黄芩湯と合方して掌蹠膿疱症に有効であった例[18]、柴胡四物湯加減と温清飲加減で改善した汎発性脱毛症の2例の報告もある[19]。

3. 血液疾患

血液疾患に対しても、やはり四物湯単独ではなく併用や含有処方が用いられることが多い。特発性血小板減少性紫斑病に対しては、伊藤が十全大補湯から補中益気湯合四物湯加半夏に変更して有効であった1例を[20]、川越らは六君子湯との併用で血小板数が増加した2例を[21]報告している。また野上らは柴胡四物湯で安定している骨髄異形成症候群の1例を報告している[22]。四物湯の貧血改善作用は、実験的には証明され貧血の治療薬として紹介されている[23]が、臨床報告はないようである。

4. その他

山岡は、膝関節痛に対し四物湯を中心とした処方を用いた症例を報告している。それによると、10年来の変形性膝関節症に対し、大柴胡湯と四物湯を投与したところ疼痛が軽減し、以降症状に応じて当帰飲子と大柴胡湯の合方や加味逍遙散、防已黄耆湯と四物湯の合方など適時変更して良好な経過を得ている症例を報告している[24]。防已黄耆湯合四物湯は岡田の報告もある[25]。

泌尿器系疾患には、猪苓湯との合方がしばしば用いられる。池内は、難治性再発性の慢性前立腺炎と前立腺炎様症候群に対して証を検討したうえで四物湯を投与した。その結果、四物湯は慢性前立腺炎で13例中9例、前立腺炎様症候群では15例中9例で有効以上の治療成績であった[26]。渡部らは頻尿、排尿困難などの下部尿路不定愁訴に対して、猪苓湯合四物湯を46例に投与した。その結果、全体としての有効率は59.2%であり、疾患別では神経性頻尿に対して、症状別では残尿感および頻尿に対して有効性が高かったと述べている[27]。この他、細菌性膀胱炎に対する報告は多い。

宮崎らは、四物湯合小建中湯を用いて、不妊症、冷え症、慢性胃炎、アトピー性皮膚炎などを治療したところ、全58例中52例で有効以上の効果を得たと報告している[28]。また、三谷は異病同治の報告として慢性疲労症候群、不眠症、高血圧症に四物湯を用いて著効を得た3例を述べている[29]。この他、認知機能に対する実験結果はあるが、まだ人での報告はない。

【参考文献】

1. 山田光胤 ほか: 漢方処方 応用の実際, 208-209, 南山堂, 2012.
2. 矢数道明: 臨床応用漢方処方解説, 239-242, 創元社, 1966.
3. 小川 新: 四物湯及び類方の腹証について 瘀血研究 4・5 67 1988.
4. 佐野敬夫: “四物湯”の使用経験, 産婦人科漢方研究のあゆみ, 29: 59-61, 2012.
5. 村田高明: 現代の漢方治療 産婦人科疾患 冷え性, 診断と治療, 74(11): 2355-2359, 1986.
6. 村田高明: 特集 周産期医療と東洋医学 不妊症の漢方療法, 周産期医学, 23(11): 1540-1544, 1993.
7. 川田信昭 ほか: 鼠径部に圧痛を有する産科的静脈還流障害に対する四物湯の効果, 和漢医薬誌, 11(4): 332-333, 1994.
8. 今西義則: 漢方薬竜胆瀉肝湯合四物湯による難治性帯下の治験例, 漢方の臨床, 33(1): 24-26,1986.
9. 岡田耕造: ステロイド治療により生じた色素沈着症の漢方治療, 漢方の臨床, 46(10): 1697-1703, 1999.
10. 岡田耕造: 漢方薬治療が奏効した尋常性痤瘡の五症例, 漢方の臨床, 48(2): 229-238, 2001.
11. 岡田耕造: 漢方薬治療が奏効したと思われる手背部熱傷の一症例, 漢方の臨床, 45(9): 1150-1155, 1998.
12. 中島 一: 四物湯と皮膚病, 東洋医学, 21(7): 26-29, 1993.
13. 高田任康 ほか: 地黄を主成分とする漢方製剤(四物湯)の乾燥性皮膚疾患に対する皮膚保湿能への影響, 皮膚, 29(4): 774-782, 1987.
14. 佐藤公彦 ほか: 種々の透析合併症に対する漢方処方の運用, 現代東洋医学, 3(3): 88-92, 1982.
15. 山田享弘: 成人期アトピー性皮膚炎に対する白虎加桂枝湯合四物湯の治療効果, 東洋医学, 21(7): 31-33, 1993.
16. 渡邊一幹: 四物湯の治療経験, 東洋医学, 21(7):38-39, 1993.
17. 関 太輔: 加味逍遙散合四物湯の瘀血病態と皮膚症状に対する効果の検討, 新薬と臨牀, 59(9): 1656-1665, 2010.
18. 松田治己: 掌蹠膿疱症に対する三物黄芩湯合四物湯の効果とその解説, 富山県立中央病院医学雑誌, 20(3.4): 100-109, 1997.
19. 岡 利幸: 汎発性脱毛症の治験例, 漢方の臨床, 49(2): 210-213, 2002.
20. 伊藤 良: 特発性血小板減少性紫斑病の漢方治験, 日東医誌, 20(1): 40-42, 1969.
21. 川越宏文 ほか: 六君子湯＋四物湯投与後に血小板数が増加した皮膚・消化器症状を伴う特発性血小板減少性紫斑病疑いの2例, 日東医誌, 49(5): 829-834, 1999.
22. 野上達也 ほか: 随証治療が奏功している骨髄異形成症候群の一例, 漢方の臨床, 56(10): 1711-1715, 2009.
23. 小島 暁ほか: 補益作用の研究(第2報)－貧血ラットに対する四物湯および帰脾湯の影響－, 和漢医薬誌, 11(3): 231-235, 1994.
24. 山岡傳一郎: 四物湯の一運用例－閉経期に発症した慢性膝関節痛, 漢方診療, 9(4): 55-58, 1990.
25. 岡田耕造: 漢方治療が奏効した変形性膝関節症の一症例, 漢方の臨床, 45(7): 917-921, 1998.
26. 池内隆夫: 慢性前立腺炎と前立腺炎様症候群の臨床的研究 第4報: 前立腺炎難治症例に対する漢方療法, 泌尿紀要, 36(7): 801-806, 1990.
27. 渡部守浩 ほか: 頻尿・排尿困難などの下部尿路不定愁訴に対する猪苓湯合四物湯の効果, PTM, 7, 13(1), FEB, 1995.
28. 宮崎瑞明 ほか: 慢性疾患に対する四物湯合小建中湯の治療効果, 漢方の臨床, 59(7): 1271-1281, 2012.
29. 三谷和男 異病同治－四物湯の症例, 漢方と診療, 3(2): 108-110, 2012.